

道守成果報告会

平成30年度道守養成ユニット成果報告会「地方の道をいかに守っていくか」が、去る平成31年2月8日に開催された。会場となった長崎大学文教スカイホールには150人の建設・設計業関係者、国・自治体職員、一般市民らが参加した。今回から長崎大学インフラ長寿命化センターと道守養成ユニットの会の共同開催となった。

報告会の冒頭では、主催者を代表して、長崎大学大学院工学研究科清水康博研究科長と道守養成ユニットを代表して長崎県土木部藤田雅雄技監による開会挨拶がなされた。

第1部の成果報告ではインフラ長寿命化センター長松田浩教授が「SIP 地域実装の3年間の取組みと今後の展開」を紹介し、道守養成ユニットの会副会長三根孝紹氏が「平成30年度道守養成ユニットの会活動報告」、高橋和雄特任研究員が「平成30年度道守養成講座の実施状況」をそれぞれ報告した。道守活動優秀者の表彰があり、今年度は道守の吉川國夫氏、特定道守の井上和彦氏及び三根孝紹氏の3人に感謝状が贈られた。

第2部特別講演では、先ず、SIP サブプログラムディレクター若原敏裕氏による「SIP インフラの成果と今後の活用について」と題する講演がなされ、SIP インフラの最終成果と今後の活用が紹介された。次いで、政策研究大学院大学教授家田仁氏による「インフラメンテナンス問題の本質は？」と題する講演がなされた。家田先生の講演内容は、インフラメンテナンスの課題解決の本質的部分に触れるもので、参加者に大いに刺激を与えた。

第3部パネルディスカッション ～地方の道をいかに守っていくか～においては、冒頭に玉名市建設部建設管理課橋梁メンテナンス係参事木下義昭氏による「橋梁補修DIYを用いた玉名市型アセットマネジメントの構築および成果」と長崎市中央総合事務所理事森尾宣紀氏による「長崎市における道路メンテナンスの取り組み」の2件の話題提供がなされた。次いで、松田浩教授をコーディネーターにパネリストの話題提供の2氏に加えて長崎県土木部道路維持課課長馬場一孝氏、長崎県建設技術研究センター専務理事野口浩氏、道守養成ユニットの会会長吉川國夫氏によるパネルディスカッションが実施された。会場に感銘を与えた玉名市の取り組みを中心とした今後の維持管理の取り組み、新技術の活用、道守等の人材育成と活用に対する議論がなされた。



報告会参加者集合写真

長崎県建設技術研究センター専務理事野口浩氏による閉会挨拶をもって、報告会は終了した。出席者アンケートによれば、参加者の満足度が高い報告会で、毎年参加を楽しみにしているとの書き込みが目立った。



道守活動優秀者表彰



ユニットの会の活動報告



パネルディスカッション

SIP 現場実証試験(島原市三杉大橋)

SIP インフラの地域実装の一環として、長崎県が管理するコンクリート橋(三杉大橋の高橋脚)を対象とし、現場実証試験を実施するとともに公共施設管理者や実務者への見学会と技術説明会を開催しました。今回の実装試験は長崎県土木部道路維持課の提案で実現したもので、県が使ってみたい SIP インフラ開発技術を県の橋梁点検の対象橋梁に実施しました。開催に当たっては、開発者の富士通株式会社とセントラルコンサルタント株式会社の協力を頂きました。参加者アンケートによれば、目視点検が困難な場所、点検データの記録等に関して新技術は活用できるという評価とともに、画像以外の情報も取得できるような多機能化を求める意見が多く寄せられました。

日 時 平成31年1月30日(水曜日)11:00~14:00

場 所 11:00~11:30 実証試験(長崎県島原市 三杉大橋のP1 橋脚)

13:00~14:00 技術説明会(島原市城内 長崎県島原振興局第1会議室)

試験内容 「二輪型マルチコプタを用いたジオタグ付近接画像を取得可能な橋梁点検支援ロボットシステムの研究開発」

研究責任者: 沢崎 直之(富士通株式会社 第四システム事業本部 本部員)

参加者 コンサルタント業・建設業の技術者、国・県・市町の土木技術者、大学関係者等54人、道守認定者6人



説明会



現場実証試験



ME・道守修了生ワークショップ

平成31年1月10日(木)に愛媛大学において「ME 養成講座の意義、ME のめざす姿」をテーマにした修了生ワークショップに参加しました。参加者は、愛媛 ME 21名、岐阜 ME 11名、ME 新潟1名、長崎道守1名(貞方)その他大学関係者が参加し、インフラメンテナンスに関する議題について話し合いました。

開会の挨拶のあと、今年の災害の体験談として、愛媛 ME の藤本さんと岐阜 ME の加藤さんより被災した豪雨災害について報告があり、豪雨が発生する前からその後状況、情報収集の方法等について話がありました。

次に修了生グループのワークショップとして、テーマ1: 災害時に ME・道守としてできること、テーマ2: 日頃の防災に ME・道守としてできること、テーマ3: 修了生の会の運営についての3テーマについて議論し、最後にグループの代表が発表し各グループの議論内容を確認しました。その後、各 ME の会活動報告として愛媛 ME、ME 新潟、長崎道守、岐阜 ME の代表が報告を行い、一日目を終了しました。

翌、11日は愛媛大学南加記念ホールにて開催された ME 認定証授与式において、岐阜大学工学部附属イン

フラマネジメント技術研究センター長沢田和秀氏の基調講演の後、前日のワークショップの結果をテーマ別にパワーポイントにまとめて発表しました。その後、各 ME の会の活動報告として各 ME と道守の代表が発表を行いました。次に、建設業関係シンポジウムがあり、平成30年7月豪雨災害における四国地方整備局の取り組みについて、を始め7月の豪雨災害の状況や対応について説明がありました。

今回のワークショップに参加したことで、愛媛県と岐阜県で発生した7月の豪雨災害の被害状況、対応について詳しく学ぶことができました。そして、ワークショップを一緒に行った各 ME の方々の意識の高さを痛感し、今後の道守としての活動に生かしていきたいと思いました。 (養成ユニットの会 下五島地域 貞方)



1日目 ワークショップ



2日目 発表後集合写真

NEXCO 中日本エンジニアリングと意見交流会

2012年度から橋梁の維持管理の研修を実施している名古屋大学大学院工学研究科長寿命化推進室の担当者からヒアリングの要請があり、意見交流会を開催した。名古屋大学のニュー・ブリッジの研修は NEXCO 中日本の技術研修を大学と連携して実施しており、学内には全国で更新に伴い撤去された橋梁部材を再構築した実橋を設置している。ニュー・ブリッジの研修は当初から有料で運営しており、長崎大学の道守養成講座の有料化に当たって見本とさせていただいている。意見交流会の項目は以下のとおりで、双方にとって有意義な情報交換ができた。

日時：平成31年度2月21日(木) 9:30~11:30

場所：インフラ長寿命化センター

出席者：中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社能力

・人財開発部担当部長(名古屋大学大学院工学研究科橋梁長寿命化推進室)以下4人

インフラ長寿命化センター 高橋和雄、吉田裕子

内容：①研修内容、演習・実習、試験問題の作成、評価基準、資格認定、講師依頼、資格更新について、 ②運営組織・運営資金について、 ③テキストの改定頻度について、 ④演習・実習で実施している非破壊検機器について



SIP成果報告会

平成30年度九州・山口地域実装支援に関する事業報告会が、去る平成31年2月28日に開催された。会場となった福岡市TKPガーデンシティPREMIUM博多駅前4FのホールAには約160人の建設・設計業関係者、国・自治体職員、大学関係者等が参加した。

報告会の第1部基調講演・特別講演では先ず、SIPサブプログラムディレクター岡田有策氏による基調講演「SIPインフラにおける地域実装チームによる効果～インフラ分野への新技術導入促進環境の確立～」がなされた。SIPインフラの出口戦略の概要と地域展開について具体的な成果と今後のシナリオが説明された。最後にSIPインフ



SIP PD
藤野陽三先生

ラの終了後に向けて道筋をつけるための主要ポイントが示された。

次に、特別講演 1 では土木研究所技術推進本部先端技術チーム上席研究員新田恭士氏による「インフラ点検へのロボット・AI 技術導入に向けた取組み」がなされた。新田氏がこれまで取り組んできた橋梁点検効率化のための新技術導入に向けた国土交通省の施策展開、インフラ点検の未来像と課題等が明確な方針のもとで紹介された。特別講演 2 では土木研究所構造物メンテナンス研究センター 主任研究員大島義信氏による「非破壊センシングへの期待」がなされた。土木構造物における非破壊センシングの活用目的、検出技術の現状、課題、可能性が紹介された。

休憩を挟んで第 2 部成果報告では長崎大学大学院工学研究科・研究責任者松田浩教授による「全体報告 SIP 地域実装の 3 年間の取組みと今後」が報告された。12 チームからなる全国の地域実装チームの活動実績と平成 30 年度の九州・山口地域の取組みが紹介された。次いで、県別代表者によって、各県の取組みの内容が報告され、県ごとの実装支援体制の構築、技術説明会と現場実証試験の内容と評価、継続体制が出席者に伝えられた。

最後にパネルディスカッション「2019 年以降の地域実装のマネジメント体制の構築と継続」が開催された。今後の SIP インフラ継続のキーマンである 4 氏による以下のテーマの話題提供が先ずなされた。すなわち、SIP インフラ PD 藤野陽三氏による「世代を超え、そして未来へーインフラメンテナンスへの期待ー」、土木学会専務理事塚田幸広氏による「土木学会における社会インフラメンテナンスへの取組み」、国土交通省九州地方整備局企画部長藤巻浩之氏による「インフラメンテナンス国民会議と新技術活用」及び（一社）NME 研究所牧角龍憲氏による「市町村管理の橋梁の現状と今後の地域における取組みの方法性」であった。松田浩教授がコーディネーターとなり、話題提供者とコメンテーター 4 人によるパネルディスカッションが会場からの発言を交えながら活発に開催された。出席者アンケートによれば、この報告会は参考になったとする回答がほとんどで、今後の維持管理、新技術の活用の方向性が見えたと評価された。



会場の様子

編集後記

今年度も一年が終わろうとしています。今年度より道守養成講座は有料になりましたが多数の応募をいただき、道守補と特定道守の講座を無事に終了することができました。皆様のご協力のお陰と感謝しております。

平成 20 年にインフラ長寿命化センターは発足しました。私は 11 年前のスタート以来このセンターで業務に携わってきましたが、この春ここを卒業することになりました。長い間大変お世話になりました。認定者の皆様、外部講師の皆様、そして長崎大学の皆様との出会いをとってもありがたく思っております。

春はもうそこまでやってきています。皆様に希望の春が訪れますように！

(松永 佳代子)

問合わせ先

長崎大学大学院工学研究科 インフラ長寿命化センター 道守養成事務局

〒852-8521 長崎市文教町 1 番 14 号 TEL 095-819-2880 FAX 095-819-2879

Mail: michimori@ml.nagasaki-u.ac.jp

【インフラ長寿命化センターHP】

<http://ilem.jp>



【Facebook】

<https://www.facebook.com/ilem.nagasaki>

